

2017～18シーズン  
アルペン強化セミナー

ルールについて

2017年8月26日(土)

(一財)東京都スキー連盟 競技本部



## ルールの種類

アルペン競技においては、**ICR**以外に複数の特別ルールがあります。

### **1. ICR**

国際競技規則

### **2. Precision 行**

新決定事項：南半球版と北半球版年2回発行

### **3. Point Rule**

ポイントルール

### **4. Equipment**

競技用品ルール

### **5. Special rules**

各カテゴリーの特別ルール

オリンピック冬季大会、**FIS**アルペン世界選手権大会、  
ワールドカップ、コンチネンタルカップ...**Etc**



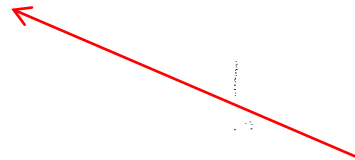
**THE INTERNATIONAL SKI COMPETITION  
RULES (ICR)**

**BOOK IV:  
JOINT REGULATIONS FOR ALPINE SKIING**

DOWNHILL  
SLALOM  
GIANT SLALOM  
SUPER-G  
COMBINED EVENTS  
TEAM EVENTS  
PARALLEL EVENTS  
KO EVENTS

APPROVED BY THE 48th INTERNATIONAL SKI CONGRESS,  
KANGWONLAND (KOR)

EDITION JULY 2012



EDITION JULY 2012

## アルペンスキーの種目

- 滑降(ダウンヒル:DH) ICR700
- 回転(スラローム:SL) ICR800
- 大回転(ジャイアントスラローム:GSL) ICR900
- スーパージャイアントスラローム(スーパーG)  
ICR1000
- コンバインド(クラシカル、スーパー) ICR1100

# コースセットについて

	SL:回転			GS:大回転			SG:スーパー大回転
標高差 (FIS、国内A級、B級)	男子 140m～ 220m	女子 120m～ 200m	ユース K1、K2 100～160	男子 250m～ 400m	女子 250m～ 400m	ユース K1 140～300 K2 160～350	ユース K1 250～400 K2 250～450
ターン数 (標高差)	30～35% +- 3		32～38% +- 3	11～15%		13～18%	8～12%
旗門の幅	4m～6m			4m～8m			6m～8m:オープン 8m～12m:クローズ
旗門間の距離	ターニングポール間 6～13m バーティカルコンビ ネーション0.75～1m ディレイドゲート12m ～18m		ターニング ポール間 7m ～11m。 ディレイドゲー ト12m～15m	10m以上		10m以上、 MAX27m	ターニングポール 間 25m以上、旗門 のコンビネーション は15m以上

## 2017/2018 ユースSAJ公認レース年齢区分

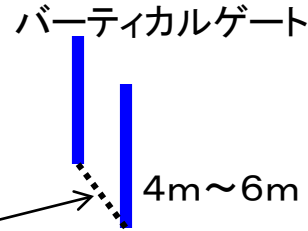
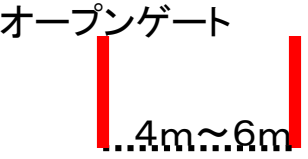
小5	小6	中1	中2	中3	高1早生	高1～高3
K1 (FIS U14ルール)		K2 (FIS U16ルール)				FIS (U18)

※全種目で軽量ポール(25～28.9mm)使用すること。

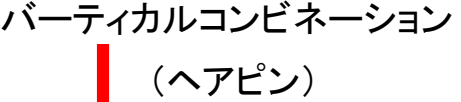
SAJ B級・国体

# コースセット(ゲート構成)

## 【回転】

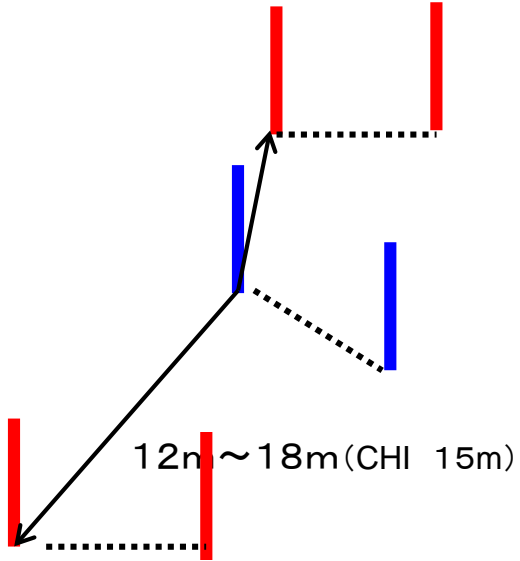


旗門線

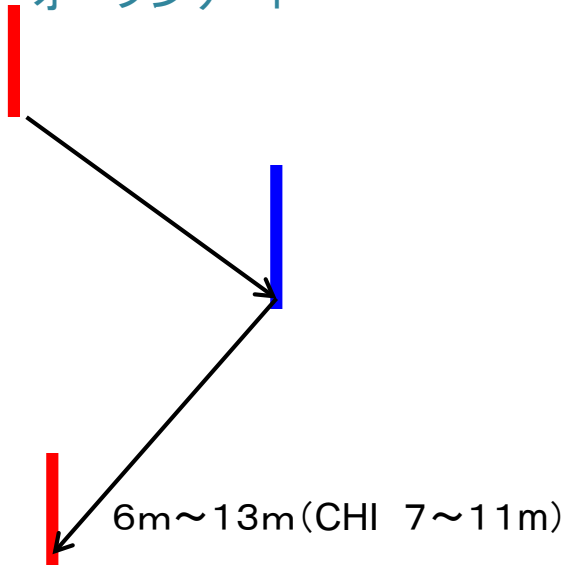


4m~6m

## ディレイドターン



## オープンゲート



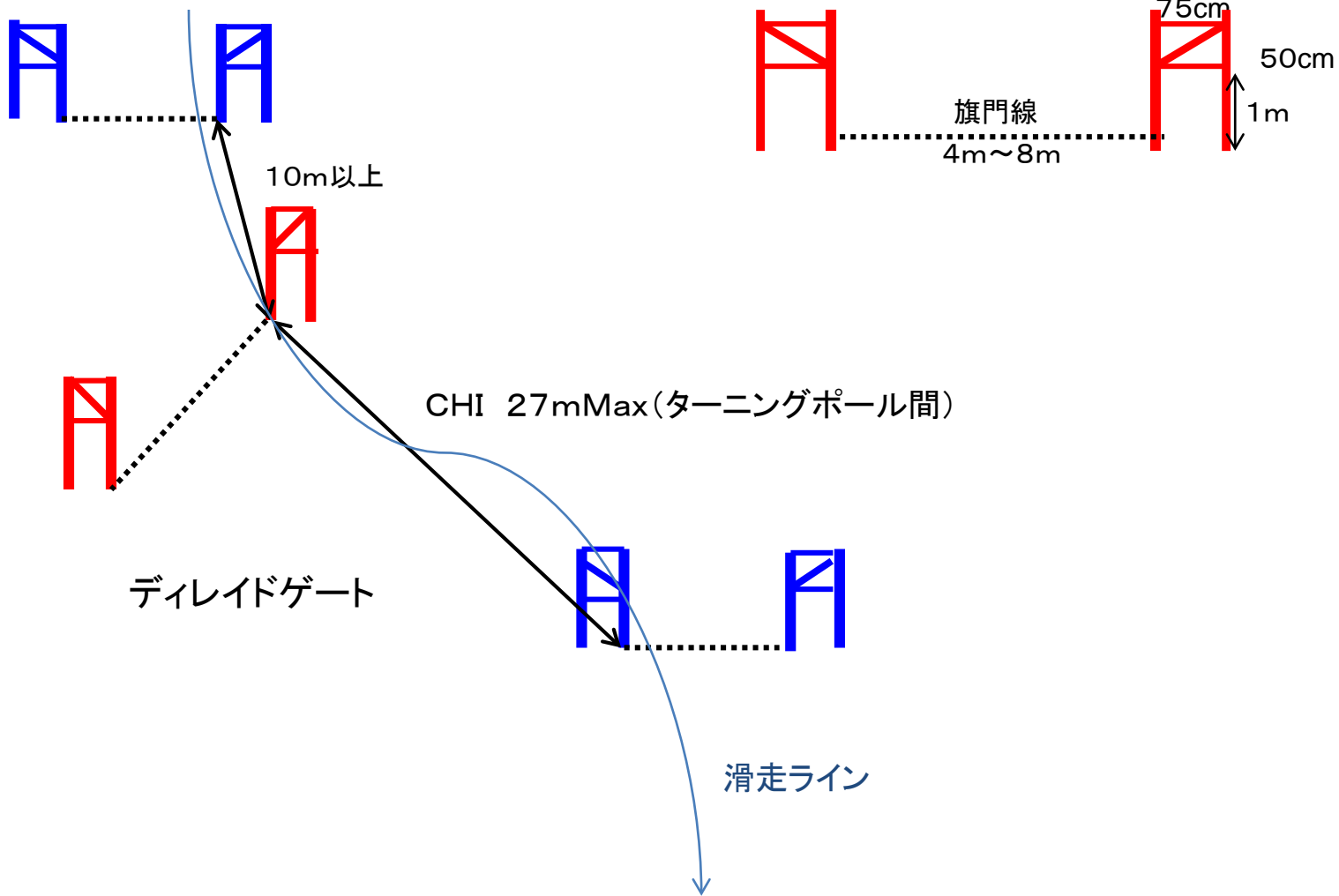
## 回転(スラローム:SL)

2本目は優勝を狙ってさらに激しくアタック



# コースセット(ゲート構成)

## 【大回転】



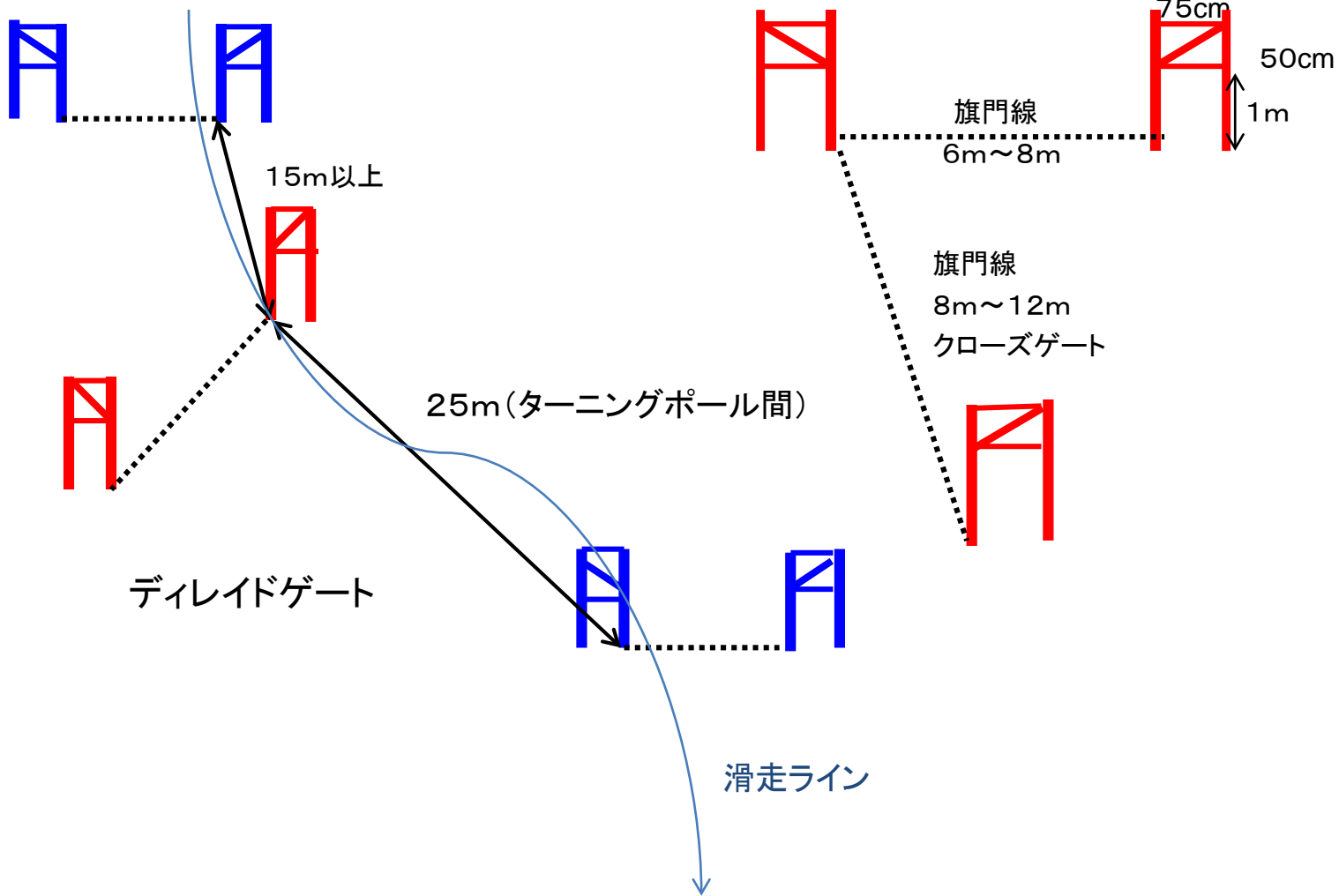


# 大回転(ジャイアントスラローム:GSL)



# コースセット(ゲート構成)

## 【スーパー大回転】

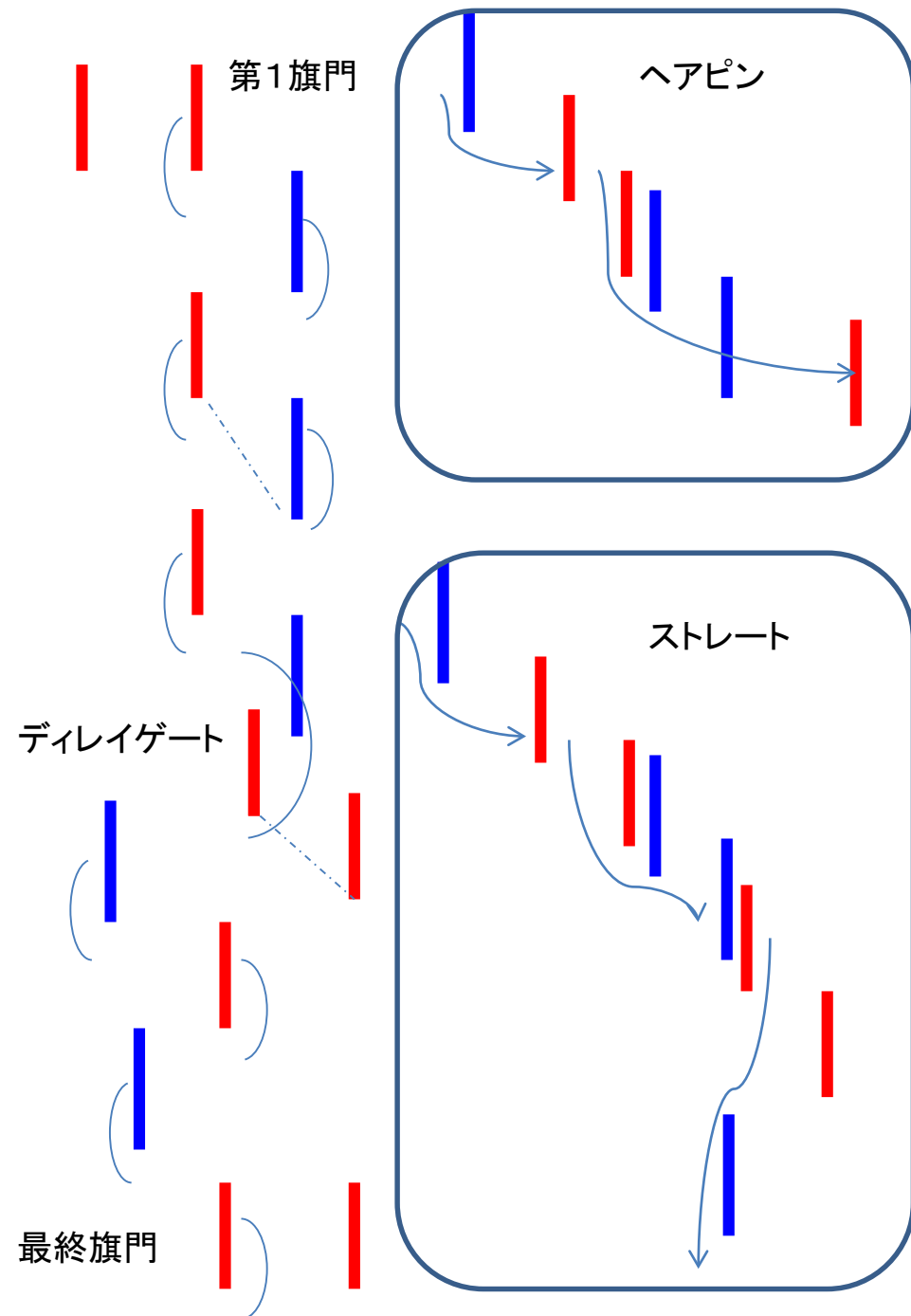


# スーパージャイアントスラローム(スーパーG)



## シングルゲート(SL、GS)

- シングルゲート(SL、GS)はアウトサイドポールを持たない。但し、第一旗門及び最終旗門、ディレイゲート(GS、SL)、コンビネーション(ストレート、ヘアピン:SL)は例外である。
- 801. 2. 3
- コンビネーション内(ヘアピンやヴァーティカル)旗門の距離は、0.75m~1m以下でなければならない。ヘアピンやヴァーティカルコンビネーション内の旗門はストレートラインでセットされなければならない。



## 失格について

- スタートでのルール違反  
第三者の力を借りてスタートする。フライングをする(前後5秒)
- コース中でのルール違反  
正しい旗門通過をしていない(継続の禁止)、他の選手の滑走の妨害をする等(スイッチバック禁止等:GS)

## 旗門の通過

### 661.4 正確な通過

#### 661.4.1 選手の両スキーの先端と両足が旗門線を横切ったとき、旗門を正確に通過したことになる。

例えば、スラロームポールをまたぐといった不通過となる行為をせずに、選手の片方のスキーが外れてしまった場合は、もう片方のスキーの先端と両足が旗門線を通過しなければならない。

このルールは、選手が旗門まで登って戻らなくてはならない場合にも有効である。

#### 661.4.1.1 滑降、大回転、スーパーGの旗門線は、フラッグでつながったポール2組から成る旗門のインナーポール間の雪面最短線である。

(第661条、Fig. 1)

#### 661.4.1.2 回転の旗門線はターニングポールとアウトポール間の雪面最短線である。

(第661条、Fig. 2)

#### 661.4.1.3 選手の両スキーの先端と両足が旗門線を通過する前に、垂直に置かれたポールを選手が移動させてしまうことがあっても、両スキーの先端と両足で正規の旗門線を通過しなければならない。(雪上へのマーキング)

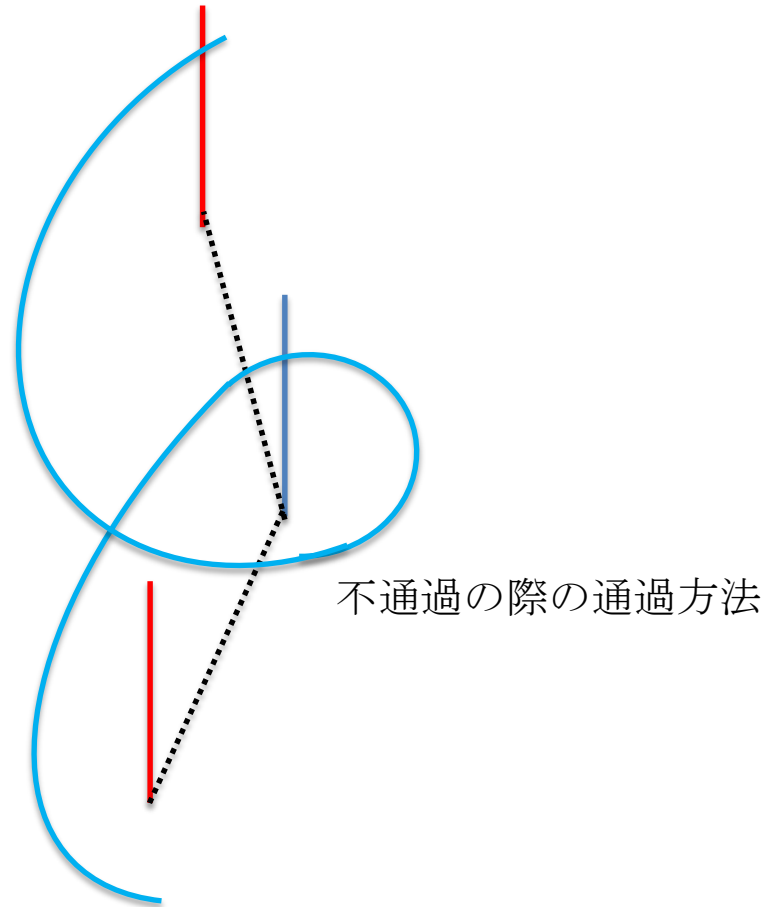
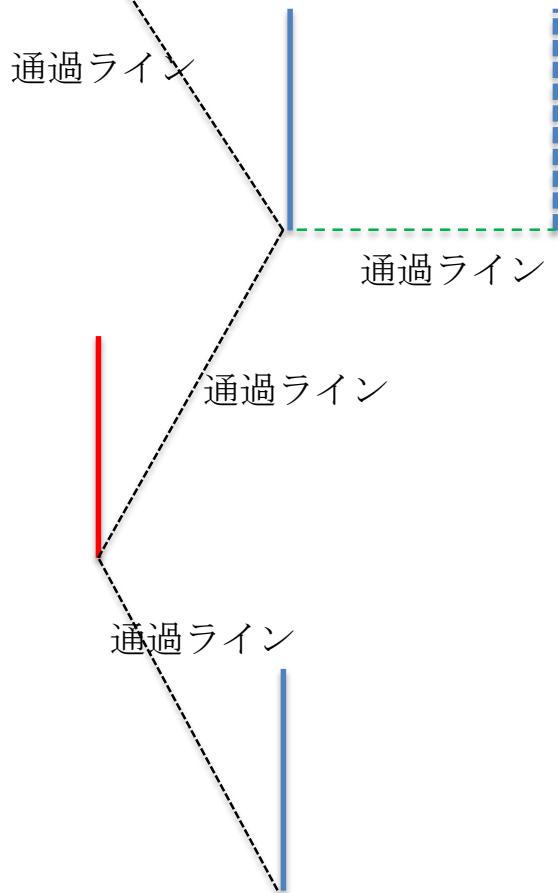
#### 661.4.2 パラレルスラロームでは、両スキーの先端と両足がゲートマーカークの外側をターンの方向に通過したとき、正確な通過となる。

(第661条 Fig. 3)

## シングルゲート競技における通過判定？

**SL**においては、ターニングとターニングポールを結ぶラインを通過ラインとして選手の通過判定を行う。

**GS**においては、ターニングゲートのターニングポールとターニングポールを結ぶラインを通過ラインとする。



## Crossing the finish line

### 615.3 Crossing of the Finish Line and Recording of the Times

The finish line must be crossed:

- on both skis or
- on one ski or
- with both feet in case of a fall between the last gate and the finish line. In this case the time is taken when any part of the competitor's body ~~or equipment~~ stops the timekeeping system.

### 615.3 フィニッシュラインの通過とタイムの記録

フィニッシュラインは、次のように横切らなければならない：

- 両方のスキーで。または、
- 片方のスキーで。または、
- 最終旗門とフィニッシュラインの間で転倒した場合、両足。この場合、選手の身体または用具のどこかの部分が、計時システムをストップした時にタイムが計測される。



## 継続の禁止 = interdiction

### Interdiction to continue

#### 614.2.3 *Interdiction to Continue after a competitor stops*

If a competitor comes to a complete stop (e.g. after a fall), he must no longer continue through previous or further gates. This interdiction is valid in all events with a fixed start interval (DH, SG, GS). Only exception is for SL (art. 661.4.1), as long as the competitor:

- does not interfere with the run of the next following competitor or,
- has not been passed by the next a competitor.

#### 614.2.3 選手が止まった後の継続禁止

選手が完全に止まった場合（例：転倒）、その選手は、前の旗門やその後の旗門を続けることはできない。この禁止は、固定したスタートインターバルがあるすべての種目（DH、SG、GS）に有効である。

SLにおいては以下の条件で例外とする。（661.4.1）~~、その選手が後続選手の滑走を邪魔しない、または、選手に抜かされない限り、スラロームは例外である（661.4.1）。~~

- ~~その選手が~~後続選手の滑走を邪魔しない、または、
- 次の選手に抜かされていない限り、~~スラロームは例外である（661.4.1）。~~

## 再レースについて

- ICR623 レース中に妨害を受けた選手は、妨害発生後直ちに停止し、ジュリーメンバーに再レースを申し出なければならない。この申し出は、妨害を受けた選手のチームキャプテンが行うこともできる。

- **妨害の根拠**

- ☆役員、観客、動物、その他障害物によるコース遮断

- ☆転倒した選手がすぐにコースを空けなかった場合のコース遮断

- ☆前の選手が落としたスキーポールやスキー等のコース上の障害物

- ☆選手を妨害する救急活動

- ☆前の選手が倒したり、すぐに元通りにしなかったため、旗門がない状態

- ☆選手の意思やコントロールではカバーできないような、その他の類似の出来事で、明らかに減速せざるを得なかったり、滑走ラインが長くなったりして、タイムに影響を及ぼすことになる出来事

- ☆計時システムの不調

# 主審決定報告書

**629** 失格  
**629.3** 正しい旗門通過をしない  
**(661.4)**。または制限時間内にスタートしない **(613.7)**

抗議について

**643.4** 失格に対して：  
失格の発表後 15 分以内

**643.5** 計時に対して：  
非公式リザルトの発表後 15 分以内

抗議の方法

**644.1** 抗議はルールとして、書面で提出する。

**644.2** 例外として**641.3**・**641.4**・**641.5**は口頭でも可能である。

**644.3** 抗議には詳細な理由を記し、実証されなければならない。証拠を示し、証拠物件を添付しなければならない。

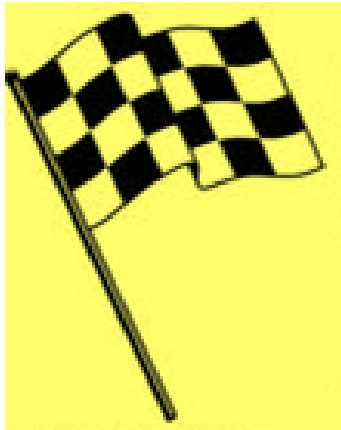
**644.4** 抗議の提出の際、**100**スイスフランまたは有効通貨の相当額をデポジットとして払わなければならない。このデポジットは抗議が受け入れられれば返却される。



REPORT BY THE REFEREE  
主審決定報告書  
PROTOKOLL DES SCHIEDSRICHTERS

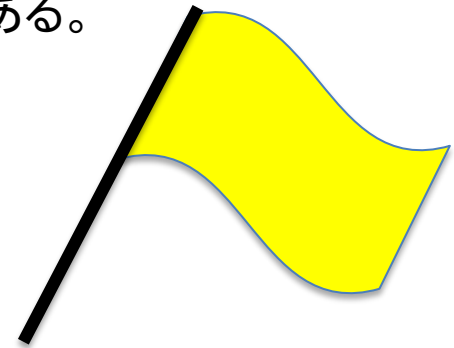


Competition / 競技会 / Veranstaltung				L <input type="checkbox"/> M <input checked="" type="checkbox"/>	
Discipline / 種目 / Disziplin			Date / 日付 / Datum		
男子回転 / 1本目			2012/11/11		
The following competitors have been disqualified according to ICR: 下記の選手は国際競技ルールにより失格となった: Die folgenden Wettkämpfer wurden im Sinne der IWO disqualifiziert:					
No. / 順位 Nr.	Name - Surname 氏名	Nat 所属国	No. of gates 旗門ナンバー Tor Nr.	Gate Judge 旗門員 Torrichter	Notes 特記 Bemerkung
15	中村 四郎		15	鈴木 三郎	ICR 629.3
Did not start (No.) 没標 (*+*)/No.)		16 24			
Did not finish (No.) 没標 (*+*)/No.)		3 9 13 25 31 39 45			
Time published 公表時間 Anschlagzeit		Deadline 抗議期限 Ablauf		Date 日付 Datum	
10:15		10:30		2012/11/11	
The Referee 主審 Der Schiedsrichter				○	



GS競技でもイエローフラッグを使用する場合があります。

高速化するGS競技において、安全性を深めるために、ジュリーの判断でイエローフラッグを設置する場合があります。



選手はイエローフラッグが降られた場合、直ちに停止し、再レースのためにスタートに戻る。

## H26 山形蔵王国体



## 2017～18 マテリアルルール(抜粋) 1/2

マテリアルルールの変更は選手の安全等を考慮し、FISが適時変更をしている。

	SG	GS	SL
ビンディング下部分のもっとも細い部分の幅	65mm以下 シニア・ユース共通	65mm以下 シニア・ユース共通	63mm以上 シニア
スキー高	50mm以下	スキー板+プレート+ビンディング 全種目、全カテゴリ、男女共通	
ブーツ高	43mm以下	ヒール底部からインナーソールまでの間隔 全種目、全カテゴリ、男女共通	
ワンピース	FIS 新規格適合スーツには適合ラベル【CS2015】が表記される。 プロンピング(FIS冠)は2017/2018シーズン終了まで有効。		

## 2017～18 マテリアルルール(抜粋) 2/2

マテリアルルールの変更は選手の安全等を考慮し、FISが適時変更をしている。

種目	SG				GS				SL		
	女子		男子		女子		男子		女子	男子	
	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	スキー長	
FIS/NC	200	40	205	45					155	165*1	
A級	200	40	205	45					155	165*1	
国体					183	30	188	30			
B級	200	40	205	45					155	165*1	
K2	スキー長175 ラディウス27 SAJスキー長183 ラディウス30以上推奨				スキー長188以下 ラディウス17						
K1	スキー長・ラディウス共に体格、体力、 技能に適應したスキー				スキー長130 ラディウス14 SAJスキー長188以下 ラディウス17以上					130	

表記の数値は最小値。スキー長(cm)、ラディウス(R)

\*1 U18の1年目(2001生まれ)はSLにおいて-10cmの許容差を認める。

## 2017～18 GS / SG / DH ヘルメットルール

安全性に対する新たな基準を満たしたヘルメットには、以下のシールが製造メーカーによって貼付される。



全てのFIS、SAJ A級、B級、ユース(A級、B級)新規格対応表示(FISステッカー【RH2013】)が明示されているヘルメットの着用を義務とする。

公式用品ルール6.2.4によりヘルメットにはメーカー公式付属品以外の装着は禁止とする。



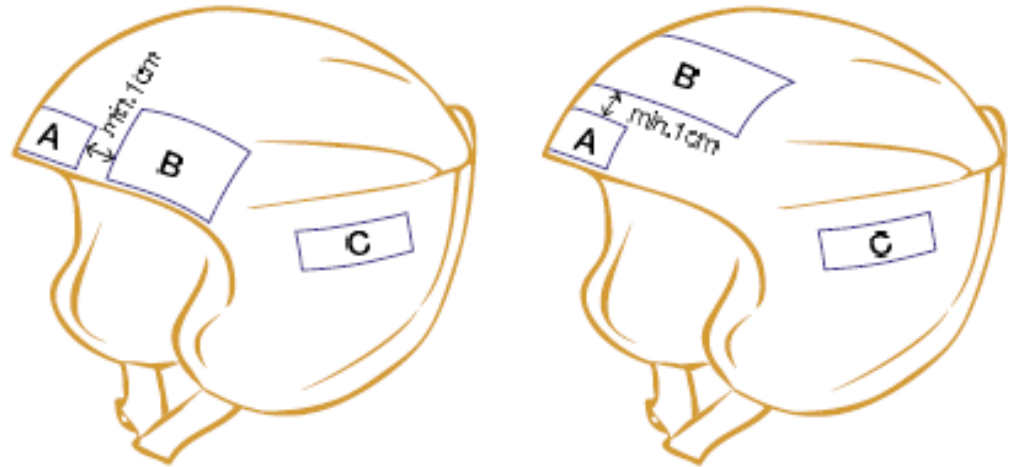
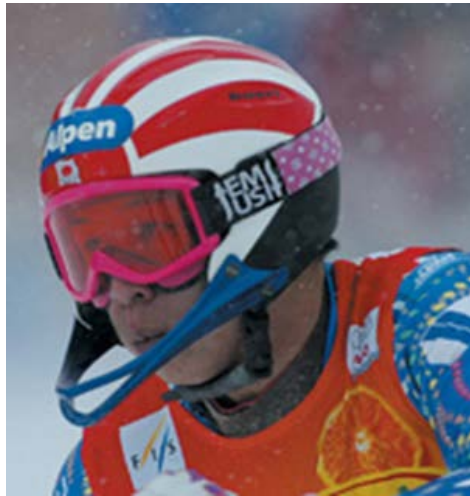
### SL

耳の部分がソフトな素材を使う物も仕様が認めれる。

FISレースではEN1077またはASTM2040認証が必須である。

SAJレースは推奨。





コマーシャルマーキングも大切な守るべきルールです。  
「A」はナショナルエンブレムの貼付位置。(必須)  
「B」はスポンサーバナー、  
左は 2スポンサー(25mm<sup>2</sup> × 2カ所)、  
右は 1スポンサー(50mm<sup>2</sup> × 1カ所)。  
貼付位置はナショナルエンブレムの位置を基準にし、  
1cm以上離す。  
「C」はヘルメットの製造メーカーバナー。

この選手の着用しているものは違反になりますが  
競技会場でのルールですから、参考例までに

# TCM、ドロー



ボードコントロール



ドロー



コンピュータードロー



ビブ配布



入賞した選手は必ず表彰式に参加する。

ご清聴ありがとうございました。